※学習のヒント※　国語科

ことばはおもしろい－ことばあそび－

羽　場　邦　子

今回は，「ことばあそび」のことを書きます。複式低学年の子ども達は，「ことばあび」が大好きです。また，川柳やことわざの本もよく手にとっています。どうして「こばあそび」が好きなのか聞いてみました。「声に出して読んだらおもしろい」「繰り返やリズムがおもしろい」「言葉がおもしろい」などでした。とにかくおもしろいのですね。

これから，いろいろな「ことばあそび」を紹介します。ぜひ，声に出して読んでみてください。

かっぱ
谷川　俊太郎

かっぱかっぱらった
かっぱらっぱかっぱらった
とってちってた

かっぱなっぱかった
かっぱなっぱいっぱかった
かってきってくった

いるか
谷川　俊太郎

いるかいるか
いないかいるか
いないいないいるか
いつならいるか
よるならいるか
またきてみるか

いるかいるか
いないかいるか
いるいるいるか
いっぱいいるか
ねているいるか
ゆめみているか

はやくちことば

なまむぎ　なまごめ　なまたまご

あおまきがみ
あかまきがみ
きまきがみ

かえる　ひょこひょこ
三(み)ひょこひょこ
あわえて　ひょこひょこ
六(む)ひょこひょこ

回文（上から読んでも下から読んでも同じ文）
ながた　みかこ

いかあかい（イカ赤い）

いただきだたい（いただきだ鯛）

いかきるきかい（イカ切る機械）

うたうたう（歌うたう）

たいやきやいた
（たいやき焼いた）

ことわざ（ことばのわざ）
五味　太郎

雨ふって地固まる
　つまり　それは
けんかで仲よし

とらぬ狸の皮算用
　つまり　それは
夢の逆転ホームラン

楽あれば苦あり
　つまり　それは
夏休みもあと少し

子ども川柳
熊田　松雄

はらのむし
お昼さいそく
四時間目

注射の日
痛くないぞと
目をつぶる

なぞなぞあそびうた
角野　栄子

あかいコートの
まんまるさん
つのを　一ぽん
つんとたて
あなたの　おくちを
まっている
（こたえ　りんご）

シトシト　なきむし
パラパラ　なきむし
ピチャピチャ　なきむし
ザーザー　なきむし
ザンザン　なきむし
なくの　やめたら
おひさま　にこにこ
（こたえ　雨）

うまれたときは
たくさんの　きもの
おおきくなったら
はだかんぼ
（こたえ　たけのこ）

声に出して読んでみていかがでしたか。きっとおもしろかったことでしょう。
他に，このようなものもあります。自分で作ってみるのも楽しいですよ。

2もじしりとり　　もも→もり→りす→すし→しか→かめ→・・・・
3もじしりとり　　めがね→ねずみ→みるく→くるみ→・・・
4もじしりとり，5もじしりとりもできそうですね。

どうぶつならべ　**う**たうたう　**さ**るがいっしょに　**ぎ**たーひく
ものならべ　　**や**さいとか　**き**のことか　**そ**のままいれて　**ば**んばんいためる

【引用・参考文献】
谷川俊太郎，『ことばあそびうた』，福音館書店，1973.
角野栄子，『なぞなぞあそびうたⅡ』，のら書店，1992.
熊田松雄，『こども川柳②』，汐文社，1995.
五味太郎，『ことわざ絵本』，岩崎書店，1996.
ながたみかこ，『みんなでぐるぐる回文あそび（緑，赤，黄の巻）』，汐文社，2008.
中川ひろたか，『ことばあそび教室』，のら書店，2016.

❖学習のヒント❖　国語科

今，改めて知りたい「国語の歴史」

谷　　栄　次

生活の中で何気なく使っている言葉や文字。言葉や文字がない時代には，それが当たり前で不便なんて感じてなかったでしょう。６年生の国語の教科書（光村図書）には，「伝えられてきたもの」という教材があり，一例として「柿山伏（狂言）」が取り上げられています。今回は，どの時代に，どんな作品が生まれたのか，どう変化してきたのかなどを端的にまとめてみなさんに紹介します。

１　言葉・文字の伝来

神話や歌謡などを口伝えで語り継いでいた時代が長く続いていましたが，４世紀の後半頃に漢字が伝来し，漢字の読み書きが行われるようになりました。仏教が伝来する前のことです。木簡に漢字を練習したものが発見されています。文字・漢字を初めて知ってどれだけ驚き，興味をもったことでしょう。また，一部の特権階級だけで文字が使われる時代でした。

２　奈良時代　－国家のための，国家による作品の誕生－

少しずつ漢字の読み書きが広がりを見せます。しかし，まだまだ口伝えの影響が残り，言霊（言葉には霊力がある）という概念が根強くありました。だから，国家が作品の成立にかかわっていました。神話や歴史が人物ごとに編集されている「古事記」（712年）や年代順にまとめられている「日本書紀」（720年）の誕生です。国家の威信を対外的に知らしめる意味があったと言われています。また，国の名前やその土地の産物，山や川などの名前や伝承や事件などを記せという命令が出され，地理誌「風土記」の編さんが始まりました（713年）。

３　平安時代　－華やかな貴族文化の中で多彩な作品の誕生－

漢字から日本にしかない平仮名・片仮名文字を発明することによって，人々は自分たちの心をきめ細かく表現するようになりました。遣唐使廃止（894年）により漢詩から和歌が重視されるようになります。愛すること，悩み，苦しみなど内省的な作品が多く誕生します。貴族の優雅な生活の描写や権力闘争の心理をリアルに表現している作品が目立ちます。時代が安定していることがその時代の文化を豊かにするのでしょう。

○竹取物語（９世紀末～10世紀初め）作者不明だが漢文で使う言葉遣いから男性

５人の求婚者に難題を出し，解決できた人と結婚する約束をしたかぐや姫。人間世界で優しく繊細な感情をもてるようになったかぐや姫の成長物語。

○土佐日記（10世紀初め）紀貫之

最古の仮名日記であり，土佐から都までの船旅55日間を記したもの。女性のふりをして仮名で書いているのが特徴。

○伊勢物語（10世紀末）作者不明

男女の様々な愛の姿について歌を中心に語った小話125段からなる。一途な愛，かりそめの恋，老いらくの恋，しのぶ恋など。死を怖れないことが愛することではと主張。

○枕草子（1000年ころ）清少納言
　定子に仕えた７年間に経験したことや感じたことをまとめたエッセイ集。現実は辛い状況におかれていたが一切記さず，明朗に屈託のない筆致で書かれてある虚構作品？。
○源氏物語（1008年ころ）紫式部
　全54巻からなる人生への深い洞察を込めた主人公「光源氏」の恋愛物語。
○大鏡（10世紀末）作者不明
　権力闘争を勝ち抜き，栄華を誇った藤原道長の時代を語った歴史物語。
４　鎌倉・室町時代　ー和歌から連歌へ，そして隠者の作品誕生ー
　貴族の没落とともに和歌は廃れ，変わって連歌が盛んになります。民衆にも広がりを見せました。武士の時代になると源平の争乱「平家物語」や南北朝の争乱「太平記」などの軍記物語が誕生します。また，そうした相次ぐ戦乱や天災から世間から離れて出家して暮らす「隠者」の文学も誕生します。永遠に続くものはない（無常観）を抱き，文章は力強い漢語を使い，リズムのある和漢混交文で書かれたものが多くなります。
○方丈記（1212年）鴨長明
　大火，大飢饉，大地震などの経験をもとに，事実を的確に描写した記録文学。
○徒然草（1331年）吉田兼好
　人間，人生，自然，住居，説話など幅広い話題を取り上げ，243段からなる。
○狂言（14世紀末）
　能の舞台の合間を飾る笑いを中心して発生。ショートコントのようなもの。
○伊曾保物語（1593年）作者不明
　イソップ物語の寓話を翻訳したもの。宣教師が日本人に倫理的教訓を与えたくて作成。
５　江戸時代　ー庶民に広がり，庶民が楽しむための作品誕生ー
　徳川の世になり，安定した時代が続きます。読者を意識した職業作家が登場します。そのことは，文学作品が商品化したことを意味し，印刷・出版の技術が発達します。庶民が喜ぶような出来事や展開を考え，文章を工夫します。会話が多く，理解しやすく現代語に大きく近づいた作品が多く見られるようになりました。江戸後期には「雨月物語」や「南総里見八犬伝」などの読本（小説形式で挿し絵も入る）や「東海道中膝栗毛」などの滑稽本が出版され，庶民に親しまれました。
○奥の細道（1694年）松尾芭蕉
　奥羽・北陸を５ヶ月かけて回り，俳諧（俳句）を中心に構成した紀行文。
○仮名手本忠臣蔵（1748年）竹田出雲ら
　人形浄瑠璃（語り手・三味線・人形操り師で表現する）の台本。赤穂事件を題材にしているが幕府の検閲を怖れ，時代設定や登場人物の名前を変えたもの。

　古典の世界にふれると今の価値観や習慣が揺さぶられ，新しい気づきを発見することができます。作品を知ることで決して開くことのできない歴史の扉を開き，その時代の人々の生活や考えをのぞくことができるのです。

【参考文献】
宮腰賢監修・石井正己編，『国語の便覧』，正進社，2016.
山口仲美著著，『日本語の歴史』，岩波書店，2011.

❖学習のヒント❖　国語科

思いを言葉にすることの大切さ

宮　本　隆　裕

１．はじめに

「静かすぎる。」「考えがあるのに，なぜ言わないの。」私が高校時代オーストラリアにいたときに友達から言われた言葉です。言葉に出せなかった理由は，英語だったからだけではなく，思いを伝えることが苦手だったからかもしれません。

しかし，今は違います。自分の思いを伝えたいと思いますし，人の思いを知りたいと思います。人の意見がわかると楽しいと感じますし，子どもたちが自分の本音を表現している姿を見ると心から嬉しいと感じます。今回は，そういった「思いを言葉にすること」の大切さについて考えてみたいと思います。

２．価値観や考え方について

The Cultural Iceberg

海に浮かぶ氷山はその90．２％は海の中にあるそうです。私たちがもつ価値観や考え方は，氷山にたとえるとその水の下の部分になります（Edward T . Hall (1976)）。

ちなみに食べ物や音楽，衣服や建築物など「見えやすい文化」が氷山の上の部分，価値観・考え方・言葉の意味・行動の意味・信仰など「見えにくい文化」が氷山の下の部分になります。本来，価値観や考え方は見えにくいものであって，簡単に人にわかってもらえるものではないと言えます。

３．国語の学習が進むと

私は国語の学習が進むと，この「見えにくい文化」を見ることができるのではないかと思っています。思いを言葉にすることで，自分の価値観や考え方を伝え，お互いが理解し合い学び合うことができるのです。授業で子どもたちは，以下のような「詩の方法」を用いて，自分の思いを詩にしました。

1　呼びかけ・叫び・独り言・つぶやきを書く。
2　自分の姿や様子・自分のしたことを他の人の目線から書く。
3　発見（観察して・ありのままに・見てさわって味わってにおって聞いて）を書く。
4　自分の気持ち（うれしくてうれしくてたまらないなど）を，行動で書く。
5　比喩・たとえ（～のよう，「空の海」など）・似ている新しさを書く。
6　想像（心に浮かぶ絵，裏の目（心の目）で見たこと）を書く。
7　夢（きのう見た夢・今日見たい夢）を，今見ているように書く。
8　願い（～して，～したい，～になりたい）を書く。
9　不思議な世界（もし～なら，もしも～だったら）を書く。
10　変身して（なりきって）書く。

ここでは，いくつか児童の創作した詩を紹介します。

虹

私は虹のカラフルが大好き
でも，虹に乗ったことはない
乗って歩いたことがある人って
いるのかな

でもなあ…今
私が歩いている所から空まで
とっても遠いし高い

いつになったら行けるの　虹

みんなちっぽけ

砂は石にとってちっぽけ
石は人にとってちっぽけ
人は木にとってちっぽけ
木は家にとってちっぽけ
家は星にとってちっぽけ
星は宇宙にとってちっぽけ
宇宙は
宇宙の外側にとってちっぽけ

それがむげんに続いて
みんなちっぽけ

どの詩も私は大好きです。それは子どもたちが普段なかなか表さない心の中の価値観や考え方が，一つ一つの言葉に乗って伝わってくるように思うからです。「みんなちっぽけ」では，小さな砂から世界がどんどん広がっていく中で，なんだか自分という存在が，そしてそんな自分が抱えている悩みが小さくなっていくような気がしてきます。「虹」では，雨が降った後に遠くに架かった虹の上に乗ってみたいという純粋な気持ち，身近なものからの発見が素直に言葉で表されています。

一つぶの涙

わたしは見てしまった
あの子のひみつ
あの子の一つぶのなみだを
表では笑っているけど
裏では泣いていた

だけどわたしは
このことを言わなかった

あの子と同じように
表では笑い
裏で泣くのが
こわかったから
いつのまにかわたしは
あの子のひみつに
目をそむけていた

でも言おうと思う気持ちが
言わないと思うへいを
乗り越えた

明日からあの子と
同じ目にあわされるだろう
だけどもう逃げたりしない
堂々と学校に行こう

「一つぶの涙」では，悲しい気持ちになった「あの子」の姿が描かれていますが，「わたし」がこの詩の作者とは限りません。「あの子」がこの詩の作者かもしれない。いや，もしかすると，ひみつを知ってしまったわたしが「こうありたかった」という夢の世界かもしれない。いずれにしても，なかなか言葉にできないような自分の深い心の声を素直に言葉にできています。これは国語で身に付く大切な力です。

４．おわりに

今求められているのは，「主体的・対話的で深い学び」と言われています。他者の考えを受けとめつつ自分の考えを伝えていくのが，主体的な思考です。平等でお互いを尊重し合える関係での自由な意見の交換が，様々なアイデアや考えを生み出し，深い学びを作ります。

国語だけではなく，主体的に学ぶ力をつけようと思ったとき，「自分の思いを言葉にすること」を避けては通れないのではないでしょうか。逆に言えば，「自分の思いを言葉にすること」を常に考えながら学習を進めることで，学びが楽しくなるのではないかと思うのです。誰もがもっている「文化」，その氷山の下の部分に注目することで，学習はもっと深まるのではないでしょうか。